

ネットのウソ情報に だまされないようにしましょう



「あの芸能人、実は〇〇みたいだよ」～こうしたうわさ話は、信じられないような驚きがあるものほど広がりますよね。インターネットでも、このようなうわさ話やデマはあっという間に拡散されます。ブログに書く、「Yahoo! 知恵袋」などのQ & Aサイトに書き込む、Twitterに投稿するなど、拡散の手段はいくらでもあります。うわさ話を言いふらしている人にとって、それが本当かどうかは重要ではありません。彼らは単純に、うそが広がることを楽しんでいるケースがほとんどです。

たとえば、2016年4月に発生した熊本地震の際、「熊本の動物園からライオンが逃げた」というデマをTwitterに投稿した男が逮捕されました。海外で撮影された、ライオンが夜の街中を歩く写真がついた投稿だったため、これを信じた人たちにより17,000回以上もリツイートされて、熊本市動植物園には問い合わせが殺到しました。本人は軽い気持ちの「釣り」や「ネタ」のつもりだったのかもしれませんが、災害情報を求めてインターネットを検索していた熊本市の人たちは、このツイートを見てかなりの不安を感じたことでしょう。

このような情報を見つけたとき、それが真実かどうかを見極めるのはとても難しいことです。そのためには、**複数のニュースサイトをチェックしたり、テレビやラジオでも確認したり**することが大切です。そして、**このような投稿を見つけても「反射的にシェアしない」**ようにしましょう。自分は仲のよい友達に伝えただけのつもりでも、そこからインターネットを通じて、間違った情報が世界中に拡散してしまう可能性があるのです。

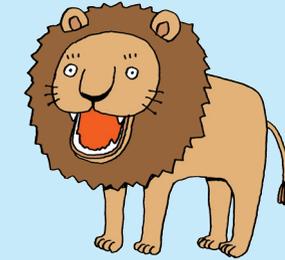
反射的に情報をシェアしてはいけない!

むやみに情報をツイート・シェアすると……



友達に
知らせな
きゃ!

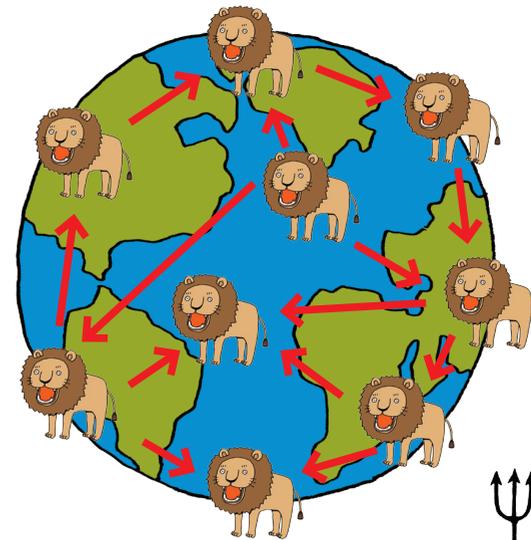
USO @800www
市内の動物園からライオンが逃げ出した!
ふざけるな〜!



ウソ情報が世界中に
広まってしまう可能性がある



みんなに
迷惑をかけ
ちゃった
……



こうなると収集つかないよ、
ヒヒヒヒヒ



有害情報を見ないようにするには？

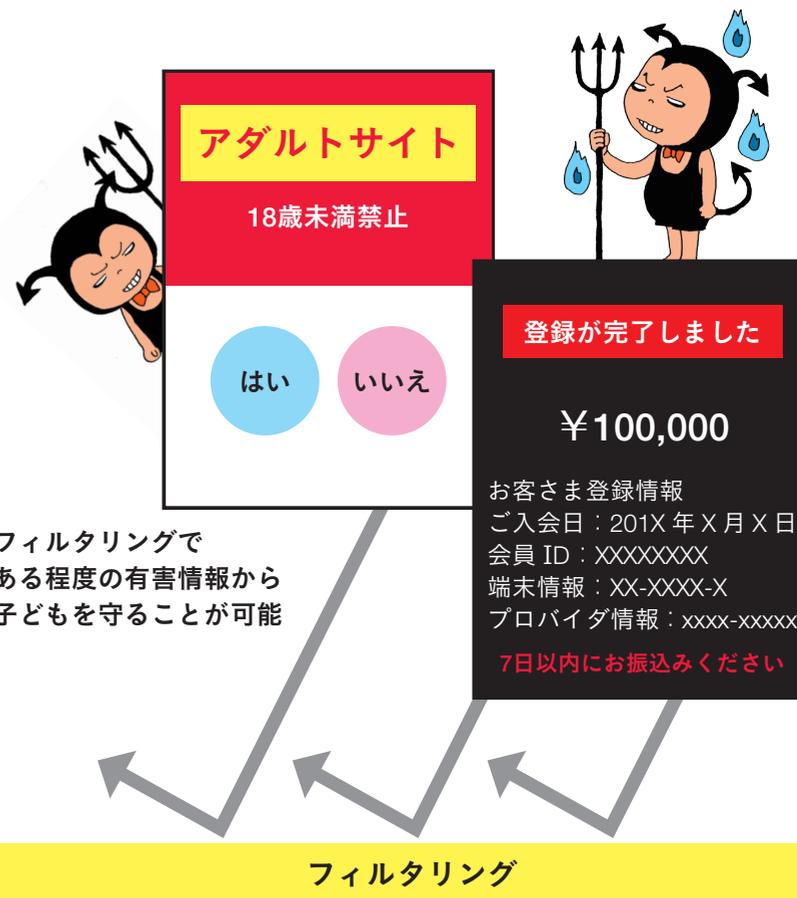


スマホで Web サイトを見ているとき、画面の中央や下部に広告バナーやポップアップウィンドウが表示されることがあります。これらを間違えてタップして、アダルトサイトや出会い系サイトが表示されて困った経験はないでしょうか？ 中には、「有料サイトへの登録ありがとうございます」などと表示されて、「ワンクリック詐欺」のサイトにつながってしまうものもあります。

このようなサイトにつながると、有料会員に登録した、動画の視聴料金が発生したなどと言いがかりをつけられて、不当な料金を請求される場合があります。このようなサイトは無視すればいいのですが、子どもは「よくわからないけど料金を請求されちゃった、どうしよう！」と慌てるかもしれません。2015年に MMD 研究所が発表した「スマートフォンのトラブルに関する調査」によると、ワンクリック詐欺にあった年代の1位は20代、2位は10代で、被害額が10万円を超えるケースは全体の1割以上だったそうです。そのようなサイトを見たことがないからといって、安心してはいられません。

このような事態を防ぐために、**有害サイトを遮断する「フィルタリング」を利用する**方法があります。フィルタリングは、青少年が有害なサイトに接触しないように、利用している端末や回線による Web サイトの閲覧を制限してくれます。携帯電話会社が提供しているフィルタリングサービスに登録するか、市販のフィルタリングアプリをスマホにインストールすると利用できます。もちろん、すべてフィルタリングに任せきりにするのはよくありません。**子どもにスマホを渡しっぱなしにせず、親の知らないところで好ましくない情報を見ていないか、継続して見守る**必要があります。

有害情報はフィルタリングである程度は防げる



フィルタリングは
有害な情報から子どもを
守ってくれるが、親が
継続して見守ることも必要



悪い動画のマネはやめよう



子どもはスマホで動画を見るのが大好きです。動画配信サイト「YouTube（ユーチューブ）」には、「ユーチューバー」と呼ばれる人気の動画配信者がいて、お笑い番組のような企画をしたり、楽しい製品を紹介したりしています。ユーチューバーはテレビの芸人よりも身近に感じられ、投稿する動画は誰でも試せるような内容であることも人気の理由です。

2016年、ある子どもがユーチューバーのまねをして、電子レンジでノートを焦がしてしまいました。ちょっとしたポヤ騒ぎになり、その顛末を書いたお父さんのブログにも意見が殺到しました。問題の動画は「ノートの文字を電子レンジで温めて消す」という内容で、熱で字が消えるボールペンを使用していました。まともな大人であれば、ノートを電子レンジに入れると危ないことはわかります。しかし、それを実行している動画を見た子どもは、安全なのだ勘違いしてしまいます。

YouTubeを始め、ニコニコ動画やツイキャスなどのサイトに投稿される動画は、子ども用に作られてはいません。中には、アダルトなシーンや暴力的な内容が含まれている動画もあります。そして、動画の配信で収入を得ている人は注目を集めるため、犯罪にならないギリギリの内容を配信することがあります。

このような有害な動画から子どもを守るには、フィルタリングに任せるだけでOKというものではありません。まずは「最近、どんな動画を見ての？」と声をかけてみましょう。どの動画を見ているのか、その動画の内容は子どもにもふさわしいかどうか、さりげなく確認できるといいですね。



有害な動画はフィルタリングでは防ぎきれない



子どもにふさわしくない動画を見ていないか、さりげなく確認してみよう